

[COMMUNION]

WEB:<http://www.nskk.org/tokyo/index.html>

E-mail:comm.tko@nsk.org

PHONE:03-3433-0987

FAX:03-3433-8678

Diocese Office



キャンプ特別号

第46号 (通巻1281号)

2018年10月14日

編集:広報委員会

委員長:渡辺康弘

日本聖公会東京教区

港区芝公園 3-6-18



2018年キャンプ特集



中高生世代キャンプ

「わたしって…」

今年度も多くの方々のご支援のもと、中高生世代キャンプを行うことができました。今年はキャンパー15名、スタッフ7名、チャレンジャー1名の23名で8月16日～19日の3泊4日の間キャンプを行いました。今年度も群馬県みなかみ町の日本バイブルホームにお世話になりました。今年のキャンプテーマは「わたしって…」。都会の喧騒から離れて同世代と過ごすキャンプの中で、自分とは何か、自分とはどんなものなのか、改めて見つめ直すことができたのではないかと思います。

プログラムとしては「分かち合い」と呼んで例年行なっているスタッフが用意したテーマについての話し合いや、聖書を読んでお互いの意見を出し合うといったものに加え、今年初めて行った企画もありました。「王道キャンプ」を目指そうということで、みんなで炊事を行なったのは今までになかった企画です。また、王道らしくするためにみんなで運動会をしたり、夜は肝試しに花火、キャンプファイアーなど夏らしさとキャンプらしさが詰まったものが多かったと感じます。

今年はキャンプに何度も参加していた世代が受験に打ち込むために出席しなかったり今年から参加するキャンパーが多かったりし、スタッフもスタッフ1年目が半分を占めるという例年以上にフレッシュさのあるキャンプだったと感じました。しかし、時が経つうちにどんどん緊張もほぐれ、仲良くなり、昔から知っている友達のようになることができました。

テーマについて

このキャンプにおいてテーマは、キャンプ作りのすべての土台であり、キャンプの雰囲気をも左右する大変重要なものです。今年度のテーマ決めにあたっては、今年度に活動しているスタッフだけに限らず、他のキャンパーOGBとも、「自分にとってキャンプとは」「中高生世代と何を一緒に考えたいか」を意見交換。そして今年度のスタッフによって、少しずつ時間をかけてテーマ像を作り上げ、テーマを決定しました。

今年度のテーマ「わたしって…」には、いつもとは違う「非日常」なキャンプでこそ、普段の生活ではあまり考えない自分自身について考え、新たな自分に気付きたいという思いが込められています。人は自分

自身について考えた時、周りの人に優しくすることができるようではないか。「わたしって…」というテーマの下でキャンパー・スタッフ23人と4日間を過ごし、そんなことを考えさせられました。

【キャンパー感想】

五十嵐 美咲

今回、中高生世代キャンプに初参加しました。普段自分から積極的に行動できない私は不安と緊張でとても心配しましたが、キャンプのみんなと過ごす3泊4日はとても貴重で楽しい時間でした。

特に楽しかった思い出は、流れ星を見たことです。生まれて初めて見ることが出来、とても嬉しかったです。そして、次に楽しかった思い出は、キャンプファイアーと運動会と逆肝試しです。キャンプファイアーでは、みんなで歌ったりしました。運動会では、みんなで力を合わせて楽しく行うことが出来ました。逆肝試しでは、スタッフの方々に自分たちで考えて怖がらせることが出来ました。

最初は、初参加で不安だったけど、優しく声をかけてくれたり、キャンパーのみんなと楽しい時間を共有することが出来てとても嬉しかったです。また来年も絶対参加したいです。

五十嵐 結奈

私は今年で中高生キャンプ2回目でした。

去年と比べ緊張は無く、「楽しみ」



という感情で満たされていました。久々に会ったみんなは私を暖かく迎えてくれて、私自身もみんなと会う事に最高の喜びを感じました。

特に思い出に残っているプログラムは「逆肝試し」です。スタッフではなく、キャンパーである私達が脅かす側をやるというものです。15人のキャンパーが、数人のスタッフを脅かすためにグループは違えど、全力で取り掛かり、またスタッフも私

達の期待に応えてくれているかのようには驚いてくれる。そんな少しハチャメチャでありながら全員が生き生きと、また楽しんでできたプログラムだと思ったからです。

私はスタッフも含め、中高生キャンプの人達が、大好きです。無条件に私の事を好きでいてくれて、私も無条件にみんなの事が大好きで、そんな素敵な関係は簡単には作れないし、そしてこの関係は一生続く大切な想いです。

学校や教会など、いる所はみんな違えど中高生キャンプでみんなと出会えることが出来た。行けたことに感謝しているし、また、みんなと出会えたことに感謝しています。

最後に、これからおじさんになってもおばさんになっても一生よろしくお願いします。みんなのことが本当に大好きです!!!

小貫 真基

待ちに待ったキャンプ。来年は受験があるので今年でキャンパーは最後。「全力で楽しむ」を目標にして行きました。

家に帰ってきてからも、キャンプソングが頭の中で流れる、キャンプの皆に会いたくて仕方がなくなるなど、頭の中がキャンプのことで一杯になり、なんとも言えない切ない気

持ちになりました。そのくらい心から楽しかったです。

今回のキャンプは私が最年長でした。そのため、初参加の時にみんなに話しかけてもらったように、今度は私が、初めてで緊張している友達、一人で暇そうにしている友達に沢山話しかけようと思いました。最終日にメモリアルブックやファイアのメッセージに、「話しかけてくれて有難う」などと沢山書いてもらったので、心底嬉しかったです。

私がキャンプで一番好きな時間は、歌の時間です。このキャンプでは歌いすぎて嫌になるくらい歌を歌います。しかしいくら歌っても、皆で歌う歌は楽しくて仕方がないのです。暇だと思ったら歌う。誰かが歌い出したらいつの間にか全員が歌っていて大合唱。私はこの雰囲気大好きです。

もう一つ、私がキャンプで非常に好きな事は、メモリアルブック、キャンプファイアーで話す、ファイルにメッセージを書くなど、キャンプのメンバーに自分の気持ちを伝える事です。自分の心の中の気持ちを伝える事は、照れくさくて言い難いけれど、それを伝えることによって、相手は心が温かくなり、大変嬉



しい気持ちになります。またメモリアルブック、キャンプファイアーの時には、沢山の人が嬉しさ、悲しさ、寂しさで号泣しました。私は「青春だ」と思いました。友達との事で泣くなんて、そうありません。こんなに素晴らしい事はないです。

聖餐式では、隣で真剣に礼拝をしている、という一面を見る事ができて良かったです。太田信三先生のお話は、「いなくて良い人はいない。皆はいなくてはいけない存在。」というものでした。このキャンプに

いません。

キャンプを通して分かったことは、自分で楽しむと努めなければ楽しめない。何をするにも楽しもうと思えば楽しめる。という事です。自分が楽しもうとしない限りどんなに楽しい環境でも楽しめません。

私は、このキャ

ンプに出会うことができで大変幸せだと思っています。私がスタッフになったら、キャンプの皆が私のように「来て良かった」と思えるキャンプに必ずして見せます。

宮城 祐貴

初めて参加するキャンプ。僕はただただドキドキして、ずっと黙り込んでいた。その時、何回か参加していた人たちが、僕のことを「ゆうき」と、苗字ではなく名前前で呼んでくれた。このことがきっかけで、僕の心は開いた。

1日目のアイスブレイクも、大きな階段を上れたきつかけの一つだ。今回の参加者は同級生も多く、賑やかで楽しい人たちだった。一緒に過ごすご中で、多くの気持ちは「初めて会う人」から「友達」に代わっていった。

最後の夜のキャンプファイアーの時には、知り合ってまだ三日なのに別れるのが嫌で悲しくなった。「また今度ね。」みんなと別れた時の言葉。今度があること、会うことが楽しい。みな友達がいること。とてもうれしい。キャンプに参加して良かった。

【スタッフ感想】

大山 純佳

私は今回キャンパーとしてではな

く、スタッフとして初めてキャンプに参加しました。でも、どちらの立場でもキャンパーはいつも本当に可愛くて優しくて：私はキャンパーが大好きですし、キャンプで沢山のひと話し、また聴くことで、自分のことを私自身改めて見つめ直せたと思います。キャンプに関わった全ての人に感謝の気持ちで一杯です。今回のキャンプに参加できて、本当に良かったです。

小幡 千花

わたしって：今回のキャンプテーマをとことん追求した約9ヶ月間でした。思ったようにやれないわたしへのもどかしさ、でも成長もたくさんできたわたし、キャンパーの変わっていく顔つきをみて嬉しくて大人になったことを実感するわたし、そしてなによりこのキャンプを心から楽しめたわたしがいました。全員が全力で遊んで話して泣いて笑ったキャンプ。キャンプに再びわたしを受け入れてくれたみんな、本当にありがとう。

北久保 光宣

ついこの間までキャンパーとして参加していた私も遂に今年はスタッフとして参加した。普段はあまり考えない自分のこと。この

キャンプではスタッフであつても自分と真正面から向き合い、「わたしって…」どんな人間であるか再確認して共有することができた。キャンパーの時とは立場も見景色も違ったが、最高に幸せな4日間というところは今までと変わりはなかった。これだからこのキャンプはやめられない！！

小嶋 元

僕は今まで中高生世代キャンプに中3のときから四年連続で参加していましたが、スタッフとしての参加は今年が初めてでした。今までのスタッフに面倒を見てもらっていたキャンプとは違い、今年のキャンプは面倒を見る側になりました。面倒を見る側になったとは言えまだまだ先輩スタッフたちに面倒を見てもらい、また、中高生たちとも共に遊び、とても楽しいキャンプでした。

永井 智子

スタッフとして3年目の参加となりました。「わたしって…」というテーマで行われた今回のキャンプは、「自分を知る」プログラムが多く用意されていました。分かち合いからレクに至るまで自分発

見の連続で、私自身も自らを見つめ直すきっかけを与えられたと感じます。この4日間を、この仲間と、共に過ごしていなければ味わうことのできないこの感覚を、今年もありがとうございました。

新妻 夏奈

キャンプに集ったキャンパー・スタッフひとりひとりの今現在の「ありのまま」をそつと受け入れてくれる、そんなキャンプ独特の温かさど力をひしひしと感じた4日間。「わたしって…」と考えた時に周りの人や神様の存在を感じずにはいられませんでした。ゼロからキャンプを共に作り上げたスタッフ、キャンプを楽



として参加していたのですが、今年にはキャンプの企画・運営の立場の「スタッフ」として中高生世代のキャンパーに参加しました。今年のテーマは「わたしって…」このキャンプで私は自分がスタッフになり年老いた事を痛感しました。でも、キャンプで得られる出会いや経験は大切にしていくことはスタッフになつても同じことで、今後もこれを忘れないでいたいと思います。

チャブレン

司祭 太田 信三

テーマは「わたしって…」誰か一人でも欠けたら実現しなかったこのキャンプで、「あなたがいないとダメなんだ！」と言える仲間と出会えました。わたしって…「不可欠な存在」

私は、昨年まで「キャンパー」

松原 雄貴

だったんだ、と神様が教えてくださった3泊4日でした。SSNキャンプからの良い流れがしっかり出てきました。教区全体で青少年活動へのより一層の祈りと支えをお願いします。

【今年度の参加者】

中高生世代

安念克海（東京聖テモテ教会）、五十嵐美咲（神田キリスト教会）、五十嵐結奈（練馬聖ガブリエル教会）、小貫和（聖マーガレット教会）、小貫真基（聖マーガレット教会）、須賀瞳（八王子復活教会）、塚田証（聖マーガレット教会）、土井優美（三光教会）、穂積光汰（三光教会）、道須南人（練馬聖ガブリエル教会）、宮城裕貴（立教学院諸聖徒礼拝堂）、村松宏高（立教学院諸聖徒礼拝堂）、本幡明日香（聖救主教会）、本幡千晴（聖救主教会）、山本和樹

スタッフ・チャブレン

大山純佳（立教学院諸聖徒礼拝堂）、小幡千花、北久保光宣（聖マーガレット教会）、小嶋元（立教学院諸聖徒礼拝堂）、永井智子（三光教会）、新妻夏奈（聖マーガレット教会）、松原雄貴（立教学院諸聖徒礼拝堂）、太田信三司祭（チャブレン、東京聖テモテ教会）

【感謝】

参加してくれたキャンパーやご家族の方々、関係チャブレンの先生方、施設を貸してくださった様々な教会の皆様をはじめ、このキャンプにお力添えをくださった全ての方々にはスタッフ一同より心から感謝申し上げます。

合同こどもキャンプ

みんなで作った

楽しいキャンプ

SSネットワークチャプレン

キャンプ長 司祭 高橋 顕

「あそぼう、みつけよう、清里の森で」というテーマのもと、7月25日から27日までの2泊3日、清里のキープ協会・フォレストアスターズキャンプ場で、第7回教区合同こどもキャンプが行われました。小学生39名・スタッフ15名の総勢54名。天気は毎日が晴でした。

キャンプ初日。開会礼拝の後に各キャンパーは、4つのグループごとに集まり、グループ名、リーダーと副リーダー、グループのきまりを決めます。それを全体で発表し合い、全キャンパーが自分のグループに対しての責任の自覚を深めます。お風呂の後は

キャンプ場の職員の皆さんが作って下さった美味しい夕食です。食前のお祈りは毎



回、こどもの誰かが担当します。夕食の後は、「どきどきナイトゲーム!!」です。4つのキャンビングループごとに巡って、キャンプのスタッフ準備したイベントを楽しみます。ゲーム、紙芝居、こわい話、きもだめしなどです。このプログラムでグループのメンバーの結束はグッと強まります。ちなみにキャンプ長の話したこわい話は本当に怖く、キャンプ長はみんなを安心させるために、あれは作り話ですよ、と後で言



いました。実はそれは本当の話なのです。就寝前のお祈りをし、1日のプログラムの最後は、各グループのリーダーと副リーダーが一堂に集まって、1日をふり返って気づきや思いを分かち合います。そのことが翌日のグループ活動の活発さを深めます。

2日目のキャンプ中日。朝の礼拝の後、涼しく清々しい高原の空気の中で朝食です。朝食の前に搾りたての牛乳をペットボトルに入れ、全員で交代しながらしばらく強く振り、バターを作ります。世界で一番美味しいバターです。朝食の後はハイキングに出発です。川俣溪谷を目指し

て素晴らしい森の景色を見ながら歩き、溪谷の小川のほとりで美味しいお弁当を食べました。そして午後にはキャンプ場に戻りましたが、そこに待っていたのは美味しい清里キープ協会のソフトクリーム。それはBSAの方々

からのプレゼントでした。本当に感謝致します。夕食までは、最終日に発表するグループごとの劇の、準備と練習です。この劇の準備と練習には、スタッフは一切関わりません。こども達の創造力と協力し合う心を信じ、スタッフ達はそこに一切信頼して、こども達を見守ります。この劇の準備と練習の時間に、こども達のダイナミックな変化が起こります。お互いに思い通りにならない摩擦と葛藤。けんか。泣き出す子。逃げ出す子。まとめ役の出現。リーダーの本領発揮。仲直り。本気の練習。本当に意義深いプログラムです。そして夜は楽しいキャンプファイヤー。みんなの楽しさが



爆発しました。踊りやグループごとの歌の披露。スタッフグループも歌います。最後に残り火を見つめて、静かな心でキャンプ長のお話を聴きました。初めてこのキャンプに参加した小学1年生のキャンパーが言いました。「このキャンプ大好き」と。

最終日。午前にいよいよ劇の発表です。それぞれのグループで、全員で一生懸命に演じました。素晴らしい!!の一言でした。こども達の成し遂げた姿にみんなが感動しました。スタッフグループも劇を演じました。劇の後は、9名の小学6年生の「こどもキャンプ卒業式」です。今度は中高生キャンプで会おうね、と9名は涙を流しながら卒業証書を受け取りました。キャンパーとスタッフ全員でさよならの握手を交わしました。

昼食をはさんで閉会礼拝を行い、バスに乗って夕刻に無事に東京に着き、解散しました。

このキャンプのためにお祈り下さり、応援・お支え下さったすべての皆様に感謝致します。

【こどもたちの声】

最後の夏キャンプ

木村 日南子（6年）

2年生から毎年行っている合同こどもキャンプなので、今年もこのキャンプをずっと楽しみに待っていました。

私は6年生なので、今年は班長になりました。苦勞した事は、劇の練習していた時です。みんな頑張って台本を書いているにも関わらず、鬼ごっこをしたり、懐中電灯を光らせたり…注意してもやめない事もあり、大変でした。良かった事は、班のみんなで協力し合えた事です。例えばハイキングの時、「ここ手すりないから気を付けてね！」など、みんな協力し助け合えた所が良かったです。もうこのキャンプに参加できないのは、とてもさみしいですが、来年は中高生キャンプに参加したいと思います。先生方、楽しいキャンプをありがとうございました。

特別な時間

巨理 蘭（6年）

私はこの合同こどもキャンプで、本当にたくさんの友達、思い出を作りました。そして、とても良い事を学びました。それは、人はきつかけ



があれば、一瞬で友達を作れるという事です。私は今年6年生であらためてこの事を実感しました。この

キャンプに行くと、今までに会った事も見た事もなかった人と3日目には、絶対に忘れられない特別な友達になれるのです。さらに先生は毎年変わらないすてきな先生ばかりで、1年ぶりに会っても緊張しないで、すぐになじめます。そのおかげで私は毎年、1日目からはしゃげていました。このキャンプは私にとって特別な先生と友達に会える大切な場所です。

小学生最後の今年は、お世話になった先生、笑いあった友達、一人ひとりの手を握る時、自然と涙があふれました。たくさんさんの思い出と最高の3日間に感謝します。

キャンプで学んだコト

海田 菜緒（6年）

私はこのキャンプでリーダーというものになりました。最初はみんなをまとめられるか心配でした。1グ

ループ9人もいて1年生から6年生までいて、歌を決める時や劇を決める時等、意見をまとめるのが大変そうだなと思っていました。歌を決める当日、みんなが知っている歌を探すと「きらきら星」に決まりました。思ったよりすぐに決まったので安心しました。みんなと一緒に「きらきら星」を歌っている時はとても楽しかったです。その次に劇を決めました。最初はみんなやりたい事が違つてどの意見に合わせるかとても悩んだけど、最後にみんなが色んな提案をしてくれて一つにまとめる事が出来ました。

今回のキャンプで学んだ中で一番心に残ったことは、みんなで協力すれば一つになれるです。この事をこれから活かしたいです。

昔の自分を思い出して

森 真依（6年）

私は、このキャンプに2年生の時から参加しています。だから、6年生のこのキャンプは、グループの低学年を見て昔の自分を思い出していました。

例えば、2日目の遠足。1、2年



生の子が前を歩いているのを見て、そういえばこの遠足、すぐつかれたなあ、思い出しました。

また、グループで劇を決める時、なかなか発言しない3、4年生を見て、そういえば私もあんまり発言しなかったな、と思い出しました。そんな感じで昔の自分を思い出すと同時に、その時の6年生の体験した班をまとめる大変さ、上手いかわからない時のあせりもすぐ分かりました。

6年生は、班をまとめる仕事があります。それは大変だけど、勉強になります。私はこの人ならついていきたい、そう思えるような人になりたいです。

2泊3日、とても短いキャンプ

だったけど、新しい友達や久しぶりの友達と一緒にキャンプができて良かったです。最後のこどもキャンプは、ものすごく楽しい、最高のキャンプでした。

教区青年会

第1回サマーキャンプ@シャ
ルームロッジ (8月24～26日)

美しい自然と、おいしいご飯、ゆっくりと流れる時間の中で温かい出会いと交わりの時を過ごしました。金曜日、一日の終わりに疲れて集まった10人が、キャンプの終わりにには心も身体も癒され新しい気持ちで帰ってくる事ができました。私たちを迎えてくださった管理人のみなさん、このキャンプを支えてくださったすべての方々に感謝します。

(世話人 下条 あすか)

【参加者の声】

この青年会キャンプを通じ「仲間」の大切さや「励まし合うこと」の大切さを知ることができました。同時にゆつくりと聖書の言葉とも向き合えたキャンプでした。聖餐式を通じ「つぶやき」は主や自分の周りの人とのつながりを悪くしてしまうもの



なのだということを知りました。これから少しずつ周りを信頼し主に信頼し委ねていきたいと思えます。また今回出会った皆さんとの繋がりを大切にし、洗礼を受けた自分の教会につながり続けたいと改めて思えたキャンプでした。

(今井 泰輔)

夏の終わりに澄んだ気持ち良い空気の中で、キャンプ中にこんなお話がありました。



「キャンプは一人一人が不可欠、誰か一人が欠けたら成り立たない」

いつ誰が来ても、みんなを受け入れる。互いの気持ちを考えながら、助け合ってキャンプを楽しもうとする。そして、悩み・喜びを共にする。自然に囲まれて、誤魔化しの効かない状況で、クリスチャンとしての歩み方を見つめなおすことができ、自分と対話できたキャンプでした。

(大岡 祐一郎)

にぎやかな都市から離れて、長野県の自然の中の青年会キャンプに参加しました。聖書勉強会に、活発なディスカッションがあつて、みんな

の信仰に対する熱意を感じました。普段からあんまり喋らない方もいましたが、聖書の御言葉に対して、すぐくまじめに考え、自分の理解で話していました。聖書勉強の時間だけではなく、ハイキング、BBQ、温泉のプログラムも楽しかった。信仰に対する熱い心、主の愛を持つて若者との出会いすることを感謝します。主の中でのいい交わり、素晴らしいキャンプと思っています。

(肖 俊)

東京教区青年会のキャンプが行われた。日頃から聖書の勉強会などを行っているが、それぞれ異なる教会に籍を置く若い世代がこれほど多く集合することは珍しい機会である。主な内容は、聖書研究、ハイキング、温泉、焚火、BBQ、星空観察、テゼ、黙想、代祷づくりと盛り沢山、日曜日には聖餐式を行った。2泊3日と短い時間ではあったが、急速に親睦を深めることが出来、以来活発に交流が行われるようになったのは大きな収穫であった。

(中島 鷹行)

とても暑苦しかった東京での生活

でしたが、キャンプの宿である湯の丸高原に到着してからは驚くほど涼しかったです。山登りと用意してくださったお弁当と一緒に食べたことはほんとに楽しかったです。それと深い交わりの後の自然の中での聖餐式は特別な経験でした。

興味深かったのは韓国人である私と含めて中国の青年が参加した、3カ国の交わりがあったことです。都心では普通見ることが出来なかった星空を見ながら3カ国の青年がここに集まって国を越えて神の中の交わりをすることはやっぱりできるものだと思います。

短かった2泊3日でしたが、自然の中で同じくキリストに似ていこうと思っている弟子の青年たちと分かち合つて、ほんとに充実した時間でした。これからも東京教区青年の新しい歩みに神様のご加護があるように祈ります。

(尹 大燁)

【参加者】

井上開(聖パウロ教会)、今井泰輔(東京聖テモテ教会)、大岡祐一郎(聖アンデレ教会)、芝田陽治(東京聖テモテ教会)、肖俊(聖パウロ教会)、中島鷹行(聖パトリック教会)、新妻夏奈(聖マールゲレット教会)、尹大燁(練馬聖ガブリエル教会)、下条あすか(聖パウロ教会)、司祭太田信三(チャプレン)

東京教区青年会小笠原プロジェクト2018「青年たちが小笠原に出会う」(9月14～19日)

今年返還50周年を迎えた小笠原で、唯一のキリスト教会としてあり続けた日本聖公会東京教区小笠原聖ジョージ教会。小笠原愛作司祭をはじめ、彼の地で信仰を守り続けてきた人々、新たに移住した人々、そして世界自然遺産にも登録されている大自然との出会いの旅。かつて頻繁になされていた教区青年たちと小笠原との交流がこの旅によって再開されました。昨年は台風で中止。しかし今年は素晴らしい天候のもと、迎えてくださった聖ジョージ教会の皆さまから言い尽くせぬ恵みと、言い表せぬほどの感動をいただきました。ご支援いただいた諸教会、諸団体にも心から感謝申し上げます。

(チャプレン司祭太田 信三)

【参加者の声】

この旅の「青年たちが小笠原に出会う」目的は達成されたように思います。しかし「出会う」だけで終われないと考えさせられました。小笠原愛作先生をはじめ現地の方は愛に溢れる方々でした。何もしていない私がこんなに恵まれていて良いのかと、もどかしい気持ちにもなりまし

たが、今こそ小笠原の皆さまに恩返しする時がきたと感じています。

小笠原聖ジョージ教会は、東京教区に欠かせない大切な教会です。今後交流を再興する為にこの旅を無駄にはしません。多くの方が小笠原と出会い、島を愛する機会に恵まれるよう尽くしてまいります。

(佐保田 京香)

島に降り立った時、ここにしかないモノをたくさん感じて帰りたいと思う『今』を大切にしようと思いに決めました。父島はとても静かで、そこに広がる景色の美しさは言葉にできません。豊かな自然と温かい島の人たちが、私をとて



も穏やかな気持ちにしてくれました。そして目の前にあるものをじっくりと見つめた時間のおかげで、普段の自分がいかに先のことばかりに心奪われているかを痛感させられました。この6日間を通して心のなかに平和をもたらして帰ってきたように感じます。この平和を、温かい気持ちを、絶やさずに守りたいです。

(下条 あすか)

神はこの世を創られた後、見て極めて良いと言いました。しかし、多くの人間はそれを忘れて生活しています。小笠原諸島を訪ねた我々も同じでしたが、到着後からは沢山のことに對して恵まれていたことを心から感じました。小笠原愛作司祭を初めに多くの小笠原聖ジョージ教会の方達、またこのような体験ができる

よう導いてくださった神様に感謝いたします。我々は小笠原諸島という場所の理解が足りなかったため、小笠原の教会のために何も準備することができませんでした。したが、来年は事前に準備して教会の役に少しでも立てたらいいなと思いました。

(田 知殷)

小笠原諸島は、実に夢の島である。昔も硫黄島を通じて、小笠原諸島について多少も聞いたことはあるけど、ほぼ第二次大戦のことなので、なんだか戦場の跡だらけのところじゃないかと思っていたんだけど、これほど自然に恵まれて、言葉で形容できないほど美しいとは想像でさえできなかった。この奇跡の島に、青空の下に、碧山の前に、真っ白の教会が静かに立っていることそのものも絵の

ように美術的である。そちらで聖餐式を受けることも、一生の貴重な思い出である。太陽の光を浴びながら、心の疲れも癒される。島民たちもみんな暖かくて、かえって旅に出るのではなくて、家に戻るみたいな感じも湧いてきた。もし機会があれば、ぜひ、もう一度この夢の島に戻ってきたい。

(趙 順一)

滞在中、最初から最後まで、まるで昔からの知り合いのように接して下さる島民の温かさ。そして長年その人々の生活の大切な一部となっている小笠原聖ジョージ教会という存在。自分自身を見つめ直して、同時に教会のあり方についても考えさせられました。小笠原は普段の生活で常を感じる「時が過ぎていくことへの恐怖」を感じない不思議な場所。小笠原の良さは「素晴らしい」「綺麗」という言葉では表しきることが出来ません。皆さま小笠原に足を運んでみてください。考え方や価値観が揺さぶられる何かがあります。

(新妻 夏奈)

【参加者】

佐保田 京香、田 知殷、新妻 夏奈(以上 聖マーガレット教会)、下条 あすか(聖パウロ教会)、趙 順一(同志会)、司祭 太田 信三(チャプレン、東京聖テモテ教会)